

国語科

国語科で求める子どもの姿

自他の言葉に価値を見だし、自らの表現や解釈を高めようとする子ども

「自他の言葉に価値を見だし」とは

自分や他者の言葉に込められた見方・考え方・感じ方などのよさや、言語意識や言語感覚を働かせているよさを見いだしていくこと。

「自らの表現や解釈を高める」とは

自らの思いや考えを適切に表現する力と、他者の言葉を正確に理解する力を高めていくこと。



育みたい資質や能力

求め続ける力

言葉と主体的につながり、自らの表現や解釈を高めていく力

共に学ぶ力

互いの表現や解釈を吟味し、価値を見いだしていく力

見つめる力

言葉の価値を見いだしてきた過程を振り返り、自分自身の表現や解釈の高まりを感じる力



国語科で大切にしていきたいこと

(1) 言語意識を明確にした単元構想

- 表現する相手や目的などの言語意識を明確にした言語活動を単元の軸とし、身に付けさせたい力を単元全体を通して育んでいく単元を構想すること

(2) 主体的に言葉を見つめさせる言語活動

- 子どもが互いの意見の根拠（自分なりに選んだ教材文や友だちの言葉）とその理由（根拠を基にした自分なりの関係付け）に込められたその子どもなりの見方、感じ方、考え方のよさに注目し、主体的に捉えたり価値を見いだしたりしていけるような言語活動を設定すること

